

チーム医療論 (Team Medical Theory)

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
森 啓至、山口央輝	1年次前期	必修	2	30	講義	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対するフィードバック方法	チーム医療論では、看護師と臨床検査技師のような医療への向き合い方の著しく異なる職種がどのようにチームを構成でき、効果的な職場関係を構築できるか (Team building) について、プログラムの作成など、職種間共同により異なる具体的手法の検討方法を学修する。 課題に対するフィードバック方法/レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。							
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査学の高度な知識と研究手法を体得し、臨床検査の質向上に向けた研究を遂行することができる。」及び②「専門職業人として医療に対する幅広い知識と技能を駆使し、高度な臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	1. チーム医療の構成について理解できる。 2. チーム医療構築について理解できる。 3. 食品のプログラム作成について理解できる。							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	第1回～第15回事前学習：事前に計画されている単元について予習を行っておく (各30分) 第1回～第15回事後学習：講義内容で不明な点は、講義終了直後もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にするよう努める/担当教員が配布する資料で復習を行うこと。 (各30分) ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間 (2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回) (1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回) (1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回) を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。							
授業計画	第1回	チーム医療プログラムの作成手法の紹介 I					山口央輝	
	第2回	チーム医療プログラムの作成手法の紹介 II					山口央輝	
	第3回	チーム医療プログラムの作成手法の紹介 III					山口央輝	
	第4回	チーム医療プログラムの作成手法の具体例について I					山口央輝	
	第5回	チーム医療プログラムの作成手法の具体例について II					山口央輝	
	第6回	チーム医療の問題点について I					山口央輝	
	第7回	チーム医療の問題点について II					山口央輝	
	第8回	チーム医療について まとめ					山口央輝	
	第9回	多職種連携の現状 (国内)					森 啓至	
	第10回	多職種連携の現状 (海外)					森 啓至	
	第11回	多職種連携の問題点 (国内)					森 啓至	
	第12回	多職種連携の問題点 (海外)					森 啓至	
	第13回	チーム医療の一員として臨床検査技師にできること I : NST					森 啓至	
	第14回	チーム医療の一員として臨床検査技師にできること II : 感染対策					森 啓至	
	第15回	国際緊急援助隊 (JDR) における臨床検査技師の役割					森 啓至	
評価方法 評価基準	レポート (60%)、プレゼンテーション (40%) で評価する。							
教科書	特に定めない			参考書等		各担当教員から資料を配布		
学生へのメッセージ	チーム医療は現在の医療に欠かせない。臨床現場へのフィードバックを検討するためにしっかりと学修をしてほしい。							